

2019年度

西南学院大学演劇部 春公演上演作品

それにしては青い空

石田 克騎

大石 華愛

会場には子供向けのオルゴール（忘れ物）が流れ、異質な雰囲気。客席へと向かう部分には真ん中で破れた子供の絵。題名には「かぞく」と書いてある。

プロジェクトでは諸注意などが流れている。まるで映画館状態。曲の終盤に差し掛かった部分で激しいノイズが入りだす。

そのまま客席照明は暗転。

その音はやがて砂嵐に。プロジェクトも突然砂嵐へと切り替わる。

その砂嵐の音からは僅かにニュースの音声が聞こえる。

しかし内容は聞き取れない。

入ってきた瞬間、テレビが消える。

舞台が明転。

舞台となる晃行の部屋。1つのお膳と2つの四角い箱のような椅子がある。

下手から晃行が登場。帰ってくるや否やテレビを点ける。

流れだすスポーツ中継の音声。

茂樹、下手からゆつくりと入ってきて、野球中継を見ていることに気づく。

茂樹、それを茶化す。

ゆつくりと近づく茂樹。

茂樹

晃行くーん。また野球ですかー。

晃行

ん？…おん。オープン戦。

茂樹

よく飽きないよな。野球。ただバッターが打って、ピッチャーが投げて。それを9回もやる。単調単調…

晃行

…そんなこと言ったらサッカーだって一緒だろ？ただ男同士がゴール奪い合うだけじゃん。

茂樹

そこが面白いんだろう？

晃行

野球だって同じだよ。バッターが打つのが、ピッチャーが投げるのが、それを

茂樹

ふーん…野球部だっけ？

晃行

ん？ああ、高校時代はな。

茂樹

…やばいなー。

晃行

なにがだよ。

茂樹

いや、やばいよ。やばい。野球部なんて、まあまあやばいからね。

晃行

やばいってなんだよ。

茂樹

丸坊主でしょ？

晃行

ああ。

茂樹

帽子被って。

晃行 ああ。

茂樹 練習着のここ（胸部）に名前書いて！

晃行 ああ。

茂樹 やべっー！！

晃行 やべえってなんだよ！

茂樹 やべえー！！…だせえー…

晃行 おお、だせえって言ったな！お前。

茂樹 それに比べてサッカー部は自由よ。帽子被らないし、練習着だってお洒落だし、

：髪型なんて自由の自由だからな！染めたって良いし、遊ばせたって良い。

それこそイニエスタみたいにしても良い。

晃行 あれ、ハゲだろ！自ら進んでああなってるわけじゃねえだろ。

茂樹 野球部やべー！

爆笑する茂樹。それを制しに行く晃行。

晃行 お前！静かにしろって！…妹、隣の部屋で受験勉強してんだよ…あんまり騒ぐなって。

茂樹 ああ、ごめんごめん。…あれ…もしかしてうちの大学？

晃行 え？

茂樹 美樹ちゃんの志望校。

晃行 お前が美樹って呼ぶな。…そんなにボンクラじゃねえよ。

茂樹 いやボンクラって。

晃行 関東の国立大学。なんか研究がしたいんだってさ。地方じゃ出来ないような…  
ってこれ前も話しただろ。

茂樹 うん。前も聞いた。

晃行 ふざけんな。…とにかく、静かにしてくれよ。

茂樹 分かったけど…でも野球部ハハハ！

茂樹、口を押える。多少もめたのち、手を放す晃行。

晃行 いや！それにそんなこと言ったらよ、サッカー部だって同じような髪型になるだろ。普通の高校に通ってたら、校則とかあるんだから。

茂樹 え、知らないよ。

晃行 え？

茂樹 俺、学生時代ずっと放送部だから。

晃行 はあ！？

(以下、役者によって台詞を変更)

茂樹 あたりまえだろ。(体を見渡し) どう考えても学生時代サッカーやってるやつ  
の体型じゃねえだろ。

二人の間を流れる間。少し黙る。なにやら考えている茂樹。

茂樹 「ま、大学のサークルで「漫画研究会」なんかに入ってる連中が…言えた話じゃ  
ないんですけどねえ…:あれ?

晃行 どした?

茂樹 よく考えたら、なんだ?この机?

晃行 え?

茂樹 机だよ机。前、無かったよな。

晃行 ああ。

茂樹 え、いつだよ。いつからあんだよ。

晃行 ここ最近だけど…うん、まあ…2週間くらい前か?

茂樹 ああだからか!試験期間中で俺が全然お前んち来てない時だ。どおりで初め  
て見る…

晃行 ああ。

茂樹 いいよな。文学部は。試験期間中なんかに模様替える暇があつてさ。俺  
ら経済学部は大変だぜ?なんかマイクロだかホクロだか分かんない経済学やっ  
てさ。忙しいったりやありやしない。…おい、聞いてんのかよ。  
晃行 ん?ああ、聞いてる聞いている。

茂樹、怒ってチャンネルコールを取り上げ、テレビを消す。

晃行 あ、おいなにすんだよ。

茂樹 俺といるときはテレビ禁止!

晃行 彼女かよー!…お前面倒くさい彼女かよ…

晃行、茂樹が取り上げ、地面に置いたチャンネルコールを取りに向かう。

茂樹 で、どつから持ってきたんだよ。

晃行 え?

茂樹 この机、どつから。…あ、それとも買ったのか?

晃行、少し考えるとチャンネルコールを軽く叩きつける。茂樹少しびっくり。

晃行 …… 忘れた。

茂樹 はあ！？

晃行 どっから持ってきたっけ……買ったんだっけな…

茂樹 おい、お前大丈夫かよ。

晃行 なんかも最近よくあるんだよ。いつの間にか物が増えてたり、自分がしたこと忘れてたり……ま、いっか。(顔、正面)

茂樹 いや良くねえだろ。…なに軽い感じで言っただよ。

晃行 別に大したことじゃないだろ。

茂樹 いやそういうのは一応病院行った方が…もしくは警察だ！泥棒かもしれないし！

晃行 泥棒は物取ってくだろ。うちは増えてんだから。

茂樹 じゃあ…逆泥棒！

晃行 逆泥棒ってなんだよ。

茂樹 逆泥棒だよ、逆泥棒！家に金品を勝手に置いていく。

晃行 そいつらの目的はなんだよ！

茂樹 それは…

晃行 はいはい。それはいいとして。遥奈ちゃんは？

茂樹 え？

晃行 ……お前…遥奈ちゃん、呼んだんだろ？

茂樹 あ、うん。呼んだけど…

晃行 ……ふーん。

茂樹 いや、おまえ、勘違いするなよ？別に…俺が呼ぶって言ったわけじゃ…

晃行 そういうの良いつて…

茂樹 あくまでもあっちがここに来てみたいって…

茂樹の後ろに晃行が回り込む。

晃行 狙ってんだろ？

茂樹 え？

晃行 遥奈ちゃんのこと。

茂樹 いや別に、狙ってるわけなんかじゃ…

茂樹、明らかな動揺。

晃行

今日決めちゃえよ。

茂樹 …え？

晃行 遥奈ちゃんかわいいもんな…漫画研究会唯一の3年女子部員。みんなのマド  
ンナ…お前が惚れる気持ちも分かるよ…

茂樹 だから…そんなんじゃ…

晃行 否定すんなって。サークルのメンバー、みんな気づいてるよ。

茂樹 え?!まじで!?!?

晃行 あたりまえだろ?やたらめったら距離は近いし、身体もベタベタ…

茂樹 嘘…そんなことしてた、俺。

晃行 住所教えた?

茂樹 え?

晃行 いや、遥奈ちゃんに。ここ住所。

茂樹 あ、俺、駅しか伝えてないわ。

晃行 おいおい…

茂樹 まっずいなー。ちょっと電話してみる!

ポケットから電話を取り出す茂樹。

茂樹 あ、もしもし!遥奈ちゃん。おれおれ。茂樹。今どこ?…あ、もう駅ついた  
?じゃあ道教えるね!…右右!左右左左!…そして右手に晃行んち見え  
るから!じゃあね!

携帯を切る。

晃行 …説明雑すぎるだろ、お前…

茂樹 ああ、緊張しちゃって。

晃行 なにしてんだよ!

茂樹 ああ、どうしよう!

晃行 あんな道案内じゃ、遥奈ちゃん、うちに来れないぜ?

ドアのチャイムの音。

晃行 来れんのかよ!

下手に遥奈を迎えに行く晃行。

遥奈 お邪魔しまーす。

下手から入ってくる晃行と遥奈。  
直立不動になる茂樹。

茂樹 ああ！久しぶり！遥奈ちゃん！

遥奈 茂樹くん！久しぶり！

茂樹 最近、部室いなかったね。

遥奈 ああ、ごめんねー。インターンとか、あと発達心理のレポートが終わらなくて  
…うちの教授厳しいから。

茂樹 ああ、なるほど…。

変な表情で茂樹を見る晃行。

茂樹 …なんだよ、その顔は。

晃行 いやあ…別に…あ、遥奈ちゃん、お茶いる？

遥奈 ああ、ありがとう。もうう。

晃行 了解。…茂樹。

茂樹 ん？

晃行、頑張れ！というポーズ。

茂樹 あのバカ…

遥奈 駅に近いんだね。すぐ来れちゃった。

茂樹 そ、そうなんだよ。良い所にあるでしょこの家。

遥奈 ここ茂樹君の家じゃないじゃない。

茂樹 ああ、そうか。

遥奈 あ、そうだ！お茶も頂くんだし！ここって、晃行君の実家でしょ？

茂樹 え、ああ、そうだけど…

遥奈 ご両親に挨拶しなきゃ。

茂樹 ああ！ちよっと待って遥奈ちゃん！

遥奈 …どうしたの？

茂樹 あのー…

遥奈 お邪魔しますの挨拶ぐらいしなくちゃ。

茂樹 いやその…実は…晃行、ご両親いないんだ。

遥奈 …え？

茂樹 いや、…そのーあのー…俺も詳しくは知らないんだけど…昔、事故で晃行のこ

遥奈

両親：両方とも亡くなったらしくて…

ああ…

茂樹　だから、今は親戚とかの支援を貰って、ここで妹さんと2人で暮らしてららしいんだ。

遥奈、異変。

茂樹

あんまり明るい話題でもないし、晃行もやっぱり、なるべく思い出したくないだろうから…

遥奈

妹さん…？

茂樹

え？

遥奈

妹さんと…何？

茂樹

え？…ああ、だから今は、妹さんと2人でこの家に…

遥奈

妹さんと二人？

茂樹

え…うん。

遥奈

…同人誌だ。

茂樹

え？

遥奈

同人誌によくある展開だ！

茂樹

遥奈ちゃん？

遥奈

兄と妹の2人暮らしで愛を育むなんて、同人誌のクリーシエ！

茂樹

ク、クリーシエ？

遥奈

常套手段ってこと…！…兄と妹で愛を育めば…後はドンと行ってガンって行ってバーン…！妹さんどこ…？

茂樹

え、隣の部屋だと…

遥奈

私ちよつと行ってくる！

下手へと走り出そうとする遥奈。不思議な格好で止める茂樹。

茂樹

ちよつと遥奈ちゃんやめときなよー！！動機不純だしー、まず不謹慎だしー！！

動きを止める遥奈。

茂樹

グエ。

遥奈

茂樹君。

茂樹

ど、どうしたの、遥奈ちゃん。

遥奈 漫画に乾杯。

再び下手に走り出そうする遥奈。

茂樹 だから遥奈ちゃん！！

下手から晃行登場。扉を開ける音。押戸。

晃行 お茶持ってきたよ…

茂樹 あ！晃行！

刹那扉を閉める晃行。

茂樹 晃行ー！！ちょっと待てー！！…誤解なんだー！

まだ下手へと行こうとする遥奈。

ゆっくり入ってくる晃行。疑惑の目。

晃行 なにが誤解なんだよ。流石に同じ男でも、そんなバイオレンスな求愛、肯定出  
来ないぞ。

茂樹 だから違うって！！…遥奈ちゃんが、妹さん見たい！隣の部屋に行きたいって  
聞かなくってさ…

晃行 え？

遥奈 ダメ？妹さんに挨拶しちゃ。

晃行 ああ…：申し訳ないけど、妹、今年大学受験でさ。ピリピリしてるから…俺も  
しばらく話してないし。

遥奈 え？兄妹なのに？

晃行 まあ男女の兄弟なんてそんなもんだよ。

遥奈 へ…

晃行 まあ仲が悪いわけじゃないんだけどね。

茂樹 妹さんはどうか知らないけど、晃行君は超妹さん思いでござんすからね。

遥奈 え？そうなの？

晃行 ちよ、おい。

茂樹 こいつの妹さん、美樹って言うんだけどさ。ああ。普通に話してるときも美樹  
美樹くって。

遥奈 へー。

茂樹　なんか壊れかけてるのかと思うよね。ミキミキミキミキって。  
晃行　そんなに話してないだろ。  
茂樹　話してるよ。充分。一体何割が妹の話なんだよ。  
晃行　妹の話…

晃行、急に神妙な表情。

茂樹　そう妹の話！充分多いって。それにな、俺らがここではしゃいでるときに、妹さんが来て、少しでも文句言ったら、スンと黙る。  
遥奈　え…ねえねえ…ってことは茂樹君は妹さん見たことあるの？  
茂樹　そりやありますとも。  
遥奈　…どんな子？かわいい？  
茂樹　うーんそれは…

晃行の顔をニヤニヤと眺める二人。しかし晃行は動かない。

茂樹　お兄様の前では言えませんかー！

はしゃぐ2人。しかし晃行の異常を茂樹が察知。

茂樹　…ん？どした？  
晃行　いや…なんでもない。  
茂樹　あんまぼーっとすんなよ。  
遥奈　ふう…ごめん…トイレってどこ？  
茂樹　ああ。部屋出て右に曲がってすぐのそこだけど…どしたの？  
遥奈　デリカシー。  
茂樹　ああ、ごめん。あ、あとくれぐれも妹さんの部屋は…  
遥奈　分かってるって。

遥奈、下手にはける。

晃行と茂樹、謎の間。

茂樹　やけにぼーっとしてんな。  
晃行　いやいやごめんごめん。  
茂樹　大丈夫かー？あ…まさか妹が最近相手してくれないからそれで…  
晃行　なあ…俺って妹にどれくらい会ってないっけ。

茂樹 …え？

晃行 いや妹に…どれくらい。

茂樹 …知るワケねえだろー。久々にここに来たのに。逆に把握してたら気持ち悪い  
つての。

晃行 まあ…そうか…

茂樹 大丈夫か？お前。

晃行 いや、いや。ごめんごめん。

一息つく茂樹。お茶の数に気づく。

茂樹 …あれ？なんでお茶1つしかないの？

晃行 なんて…遥奈ちゃんの…

茂樹 俺の分は？

晃行 いや、ねえよ。

茂樹 なんでだよ！

晃行 おまえ、うちの家のお茶もお湯の在処も知ってるだろ。自分でついでこいよ。

茂樹 …なんだよお前。…あああ！！

茂樹、下手にはける。しばらくして遥奈、帰還。

遥奈 茂樹君、何怒ってたの？

晃行 しらない。

晃行の横にちよこんと座る遥奈。流れる間。

遥奈 なんだか…二人っていうのも新鮮だね。

晃行 え？ああ…

遥奈 晃行君って、普段部屋いないし。

晃行 まあね。うちのサークル、個人活動だし。

遥奈 また図書館に入り浸ってるの？

晃行、少し笑顔。

再び間。

晃行 あ、そうだ。…遥奈ちゃんはさ、茂樹のこと、どう思ってるの？  
遥奈 え？

晃行 茂樹のこと。ほら、よく一緒にいるじゃん。

遥奈 ああ…茂樹君はいい友達だよ？優しいし、面白いし。

晃行 おお。高評価。

遥奈 それに、漫画の知識も豊富だしね。

晃行 ああ。確かに。あいつ、すげー知ってるよな。

遥奈 うん。

晃行 え…それ以外に…無い？

遥奈 え？

晃行 なんか知識とかそんなん以外に。

遥奈 えー…まあ、でも私の身体をすごい触ってきたり…距離感が図り切れてないところもあるから…

晃行 あー。やっぱり？

遥奈 童貞なんだなーって思うよね。

晃行 ん？ん？え？…今、なんて？

遥奈 茂樹君は、絶対童貞。その癖に女慣れしてる感じを出す、一番質（たち）の悪いタイプの童貞じゃないかな？

晃行 えー…遥奈ちゃんってさ、結構言うタイプ？

遥奈 いや、結構言うなーって。2人になると。

晃行 そうかなー。でもそうじゃない？

遥奈 …？

晃行 あの女子慣れしてない感じ、それを包み隠そうとする態度。ベラベラ喋るし、私一人にずっと付いてくる。完全に童貞！まず、オタサーで部室の住民っていう時点でそうじゃない？

晃行 うん、遥奈ちゃん、まずその童貞を連呼するのやめようか。女の子だし。

遥奈 ああ、ごめんなさい…つい言い過ぎちゃったかも。

晃行 大分言い過ぎた。

遥奈 あと、もう1つだけいい？

晃行 …何？

遥奈 晃行君のことなんだけど。

遥奈 え？俺の事？なにになに？（笑顔）

遥奈 この家さ…なんか臭いね。

晃行 え？え？

遥奈 この家、雨で濡れた犬をくささやの汁につけて煮込んで、それを3日置いたみたい匂いがする。

晃行 …遥奈ちゃん。…失礼だね。

遥奈　　そう？でも、すごい匂い。  
晃行　　話聞いている？

　　茂樹、帰ってくる。

茂樹　　なんだよー。二人で盛り上がって。あ、しかも、お茶汲んでるときに「茂樹」  
　　ってワードが聞こえたぞー。何の話を…  
晃行　　ちよつとちよつとちよつと…

　　晃行、茂樹を少し遠くへ連れていく。

茂樹　　え、ちよ、お前なんだよ。  
晃行　　聞かない方がいい…死ぬぞ。  
茂樹　　死ぬの！？

　　ああ、その話は終わってね、今は晃行君の部屋が臭いって話をしてたの。  
　　だから…

茂樹　　晃行…お前めっちゃいやいられてんじゃん！アハハハ！  
晃行　　うん。お前が言うな。お前が言うな。  
茂樹　　でも確かに晃行の家臭いよな。

　　え、お前は言えよ。アホみたいにウチに居座ってんだからさ。

茂樹　　いや、前来たときはそんなに気にならなかったんだけど、今日改めて来たら、  
　　臭いなーって。なんか雨で濡れた犬をくさやの汁で煮込んだような…

晃行　　もういいよ、それ！…流行ってんのか？なあ。  
遥奈　　ねえねえねえ。そんなのどうでもいいからさ！

　　よくねえよ！

　　早くゲームしようよ。ゲーム。

　　ああ？

　　自分の鞆を漁りだす遥奈。

茂樹　　ああ、そうだそうだ。晃行に伝えてなかった！遥奈ちゃん、すごい面白いゲー  
　　ム持ってきてくれたんだよ！

　　面白いゲーム？

晃行　　うん。なんでもインターン先から貰ってきたらしくて。

　　インターン先で？

遥奈　　あ、これ繋いでもらっている？

茂樹  
了解。

茂樹、テレビにゲームを繋ぐ。

晃行

で、どういうゲームなの？

遥奈

興味持ってくれたみたいで良かった。

晃行

まあゲームは好きだからね。

遥奈

ほら。昔、すごろくで、人生を疑似体験できるやつあったじゃない？そのゲーム版。このゲームで、人生を疑似体験出来るの。

晃行

ああ、なるほど、要はゲーム版の人生ゲー…

茂樹、急に晃行の元へ飛んできて、口を押える。

茂樹

…それは版権的に問題がある。

晃行

ああ？

茂樹、元の場所へ戻り作業。

遥奈

で、これはそのゲームの最新版！…ベータ版なんだけど。このゲームのすごい所は、実際に自分の人生を疑似体験出来るの！

晃行

自分の人生？

遥奈

そう！このゲーム機に付いてる認証システムで、自分の脳の中にある人生の記憶が実際にゲームのマスに。

晃行

え、本当に？

茂樹がその場で急に喋りだす。

茂樹

つまり小学校時代、晃行が好きな子のリコーダーをペロペロしたこと…

遥奈

晃行君が、好きな子の体操服を勝手に持って帰ったことも…

二人

みーんなゲームのマスになる！

晃行

…お前らと会ったの大学だろ。そんなことしてねえし。…っていうか、そんなすごいゲームいいの？

遥奈

え？

晃行

いや、インターン先から持ってきちゃって…

遥奈

ああ、別に勝手に持ってきたわけじゃなくて、あっちがくれたの。

晃行

くれた？そんなすごいのを？

遥奈 デバッグしてくれってね。  
晃行 デバッグ？…デバッグってなんだよ。  
茂樹 ゲームっていうのは作って間もないときは「バグ」っていう、まあ一種の計算間違いみたいなものがあるんだよ。で、そのバグを放置したら、ゲームがフリーズしたり、急に画面表示がおかしくなったりする。で、そのバグが無いか確認、修正する作業を「デバッグ」っていうんだよ。

遥奈に対し、最後に格好つける茂樹。

遥奈 まあ修正は私は出来ないんだけどね。このゲームもベータ版だから、まだ結構バグが残ってるの。その発見を任せられたってわけ。

茂樹 しかもこのゲームは3Dホログラムだから、まるで目の前にそれがあるよう！

晃行 ホログラム？

茂樹 まあ全員が眼鏡なしで見れるVRみたいなもんだよ。さ、長い長い説明台詞を終えたところでっ！…遥奈隊長。ゲームの接続作業終わりました！

遥奈 ありがとう！じゃあ晃行君、これで認証してみて。

晃行 ああ、指を乗せるだけでいいの？  
遥奈 うん。

認証システムに指を乗せる晃行。

茂樹、カーテンを閉めに行く。

音声 カネコアキユキサン。ニンショウシマシタ。

遥奈 …よし、じゃあ始めようか。

晃行 あれ？遥奈ちゃんと茂樹は？

遥奈 もう認証されてる。

茂樹 前、部室でやったからな。

晃行 え。

茂樹 そうじゃねえとあんなにだらだらと長い事喋らないだろ。

晃行 ああ、まあそりゃそうか。

茂樹、部屋の端へ。

茂樹 それではホログラムを発動させるために部屋の照明を落としまーす。  
遥奈 お願い。

茂樹

3・2・1…

照明のスイッチ音（エコー入り）。照明は同時に消える。  
このゲームのOPテーマらしき壮大な音楽がかかる。

晃行

うわあ…すげえな。おい。本当にゲームの世界に入り込んだみたいだ…

遥奈

じゃあゲーム始めちゃうね。

晃行

あ、うん。…楽しそう。

遥奈

ニューゲーム。それぞれの人生モード…学生時代から…と。

晃行

あれ？なんで学生時代からにしたの？

遥奈

ああ、これね、最初からにっちゃうと、結構時間かかるから。

茂樹

この間2人で赤ちゃんの時からやったとき大変で、就学するまでに2時間くらいかかって…

遥奈

途中でやめたもんね。

茂樹

そうそう。

晃行

なるほど。

遥奈

学生時代の出来事がランダムにマス目になるけど、ちゃんと最近の出来事のマスが多めにしておいたから。リコーダーとか体操服とかは、たぶん出にくくは…

晃行

だからやってないって！

ウィンドウが開くような効果音。機械的な声の自動音声話しかけてくる。

音声

ようこそ。茂樹さん、遥奈さん、晃行さん。それではゲームを始めましょう。

まず、順番を選んでください。

遥奈

順番どうする？

茂樹

何でもいいよ。

晃行

俺も別に。

遥奈

了解。じゃあ、とりあえずランダムにしとくね。

宙にホログラムのタッチパネルがあるイメージ。

遥奈はそれを操作。選択すると、効果音。

音声

それでは順番・ランダムでゲームを開始します。順番は茂樹さん↓遥奈さん↓晃行さんの順で開始します。

晃行

俺、最後か。

音声 一番早くゴールについた人の勝利です。  
茂樹 よーし。最初は俺の番だな。見とけよ。優勝候補の意地を…  
晃行 いいから早くやれよ。

タッチパネルでルーレットを回す茂樹。  
ブリッジの効果音。照明は点滅。

晃行と遥奈は茂樹を観察。甘酸っぱい音楽が流れた。

この後の件では残されたメンバーはリアクション。

女性は録音音声。茂樹は面を向いて演技。

晃行 ここは…

遥奈 学校の…校舎裏？

晃行 こんなところで茂樹、何を…

女性 ごめん。待たせちゃって。

茂樹 ああいやいや。全然待ってないよ。で…どうしたの？

女性 いや…実は…その…：茂樹君！私と付き合ってください！

茂樹 お・お・お・お・お・お・お・お・お・俺と！？

遥奈 えーっ(照)

晃行 うお、まじか。

茂樹 え、まさか…どうして…

晃行 ほんとだよ、どうして。

女性 だって茂樹君、運動は出来ないけど、勉強も…出来ない。でもリーダーシップ

はまるでないじゃない！…そんなところが…好き。

素敵…

Disられてない？ねえあれDisられてない？

私と…付き合ってくださいか？

ええ…喜んで！

音楽がフェードアウト。再び効果音。照明は点滅。  
元の場所へと帰ってくる茂樹。照れている。

遥奈 茂樹君…素敵な恋じゃない！

茂樹 いやあ…まあまあ…ねえ。

遥奈 茂樹君に、あんな過去があったなんて！

晃行 ほんとだよな…結局その子とはどうなったんだよ？

茂樹 え？

晃行 どれくらい付きあったの？  
茂樹 まあそれはいいじゃ…  
音声 茂樹さん。女性から初めて告白される。中学3年生の頃の記憶です。…続いて  
遥奈さん。ルーレットを回してください。  
茂樹 ほら、次、遥奈ちゃんだよ。俺の事なんていいから！次々！  
遥奈 そうだね。さくさく進めちゃわないと。また2時間かかっちゃう。  
晃行 頑張って。

ルーレットを回す遥奈。ブリッジの効果音。照明は点滅。  
軽快なBGMが流れる。待ち合わせをしている模様の遥奈。

男① あのーすいません。今何を…  
遥奈 友達を待ってるだけです。  
男① そうですか…良かったらそこで軽くお食事でも…  
遥奈 結構です。  
男② じゃあ私とは…  
遥奈 嫌です。どうしてあなたと食事をとらなきゃいけないんですか。  
晃行 遥奈ちゃんモテるな…  
茂樹 でもそれを断るところがまた…  
男③ あのーすいません。  
遥奈 なんですか??あんまりしつこいと…

乙女の表情になる遥奈。

遥奈 ……どうか……しました？

再び効果音。照明は点滅。  
元の場所へと帰ってくる遥奈。  
茂樹も晃行もポカンと口を開けている。

遥奈 やっぱり2年前くらいの出来事が一番丁度いいね。丁度良く懐かしい…あれ  
??一人ともどしたの?  
晃行 どうしたも何も…  
茂樹 続きが気になります…  
遥奈 ああ…  
茂樹 え、付き合っていないよね??遥奈ちゃん、そのナンパしてきた男と付き合

つては…  
遥奈さん。運命の人と出会う。大学1年生の頃の記憶です。  
茂樹 運命の人！？  
音声 続いて晃行さん。ルーレットを回してください。  
茂樹 運命の人！？…運命の人！？  
晃行 うるせえな！俺の番なんだから、少しは興味持てよ！  
茂樹 優先順位。優先順位。え、遥奈ちゃん…  
遥奈 晃行君の見ようよ。  
晃行 なんだよまったく。  
茂樹 いやそうなんだけど…

ブブツというノイズ。  
ルーレットを回す晃行。ブリッジの効果音。照明は点滅。  
歩いている晃行。

晃行 あ。

再び効果音。照明は点滅。  
元の場所へと帰ってくる晃行。

晃行 …ん？どうしたんだよ。  
茂樹 ……：しよーもな！え、しよーもな！  
晃行 いやいやいや。  
茂樹 遥奈ちゃんの後とは言えど！あまりにしよーもな！  
遥奈 本当に街を歩いてただけ？  
晃行 あーまあ…  
音声 晃行さん。街を歩き、知り合いに遭遇。大学3年生の頃の記憶です。  
遥奈 …みただね。  
茂樹 しかもめっちゃ最近じゃねえか。  
音声 ……：続いて茂樹さん。ルーレットを回してください。  
茂樹 誰に会ったんだよ。  
晃行 …え？  
茂樹 いや、お前。誰に会ったんだよ！見えないんだよ、ここからだど。  
茂樹 ああ…妹だよ妹。  
晃行 妹？美樹ちゃんか。  
茂樹 うん。

遥奈 妹さんが街にいただけ？  
晃行 ああ…まあ…  
茂樹 なんだよ歯切れ悪いなあ。  
晃行 ……男だよ。男。  
茂樹 え？  
遥奈 妹さん、彼氏といたの？  
茂樹 え、いたのか！？いたのか！？  
晃行 ああ…

騒ぐ二人。

茂樹 晃行、お前もこっちの仲間だ。  
遥奈 でも妹さん、彼氏いるのね。受験って言ってなかった？  
晃行 そうだけど…いたみたいだね。  
茂樹 いや、みたいて…これ過去の記憶だろ？覚えてないのかよ。なんだよ？別れたのか？  
晃行 最近よく忘れるんだよ…もういいからルーレット回せよ。お前の番だぞ。  
茂樹 じじいかお前は…  
晃行 いいから！

ルーレットを回す茂樹。ブリッジの効果音。照明は点滅。  
明転すると夕方の効果音。教室に入ってくる茂樹。  
教室をうろちよろする茂樹。

晃行 あいつ…なにしてんだ？  
茂樹、机の前に立ち止まる。ニヤリと笑顔。  
リコーダーを取る動作。

晃行 え…リコーダー…なにを？  
遥奈 あれ？…あのリコーダーの袋の名前…茂樹君じゃなくて、女の子の…  
晃行 え…まさか。

啞える茂樹。

晃行 きもちわるっ！！！！

遥奈 え…あれって…

晃行 遥奈ちゃん！見ないであげて！…あいつりコーダーを何に…

りコーダーで曲を演奏し始める。しかも上手い。

晃行 え？

まるで音楽家のようにりコーダーを演奏し終える茂樹。恍惚の表情。

再び効果音。照明は点滅。

元の場所へと帰ってくる茂樹。

晃行 なんでもうまいんだよ！

茂樹 なんだよ。

遥奈 茂樹君…りコーダーを…

茂樹 あ、遥奈ちゃん、勘違いしないで。俺はあくまでも、人のりコーダーで”演奏”をしただけ。こいつと違ってペロペロはしてないから。

晃行 おいふざけんな！俺もなんもしてんねえよ！

茂樹 お前しただろうがよ。俺見たぞ。

晃行 だからお前と会ったの大学だって言ってるだろうが。

音声 茂樹さん、女子生徒のりコーダーを使用。中学3年生の頃の記憶です（アルト

りコーダーが用意できなかった場合、小学校6年生に変更）。…続いて遥奈さん、ルーレットを回してください。

茂樹 遥奈ちゃんだよ。頑張つて。

遥奈 ああ…私だね。

茂樹 おい、なんかめっちゃめっちゃ引いてんぞ。

晃行 お前のせいだよ。

茂樹 現実から目を逸らすな。

晃行 あ…でも、気になるな。遥奈ちゃんのあの話の続き。

遥奈 まあ、都合よくあの前回の続きが出てくるとは限らないから。

晃行 そっか。

遥奈 よし、じゃあ行くよ。

茂樹 うん。

ルーレットを回す遥奈。ブリッジの効果音。照明は点滅。

男③ あのーすいません。

遥奈 なんですか？？あんまりしつこいと…

晃行 あれ？さっきの続きじゃね？

茂樹 ええ！？

晃行 おお。奇跡だ。

遥奈 ……どうか……しました？

男③ いや、これ。落としてましたよ。

遥奈 これ…私のハンカチ…

男③ 気づいてないみたいだったんで。…それじゃあ。

遥奈 待って！…待ってください。よかったらこれから…お食事でも一緒にしませんか？

晃行 おお！

茂樹 ええ…

男③ ああ…いえ、すいません。今から試合なので…

茂樹 おい、何てめえ断ってたんだ。この丸坊主！ハゲ！クソハゲ！

遥奈 ああ…そうですか…

男③ ……（少し笑って）試合後で構わなければ。私は大丈夫ですよ。夕方には終わりますから。

遥奈 え…

男③ 大丈夫…ですか？

遥奈 はい！

再び効果音。照明は点滅。

元の場所へと帰ってくる遥奈。落ち込む茂樹。

晃行 遥奈ちゃん、めっちゃめっちゃ甘酸っぱかったよ。

遥奈 本当に？

晃行 なかなかあんな恋はないよ。本当に運命的な出会いじゃん！

遥奈 えーそうかな。

音声 遥奈さん。運命の人と交際スタート。大学1年生の頃の記憶です。…続いて晃行さん、ルーレットを回してください。

音声丸無視で話を続ける二人。

晃行 すごいね。いや本当にすごい出会い。

遥奈 まあ…ね。

晃行 え、で、今はどうなってるの？

遥奈 え？

晃行 運命の人！運命の人！

茂樹 うるせえな！お前は浮かれてんじゃねえよ！ゲームだぞ！

晃行 ゲームだから浮かれてんだよ…あ、で？どうなってるの今は？

遥奈 あー…まだ付き合ってるよ？

晃行 すげー！

茂樹 チクシヨウー！！！！！

ぶっ飛ぶ茂樹。寝転がった状態。

晃行 そりゃ運命の人だもんね。あ、そういうえさつき試合って言ったけど、何の人だったの？

遥奈 ああ。別の大学の野球部の人だったの！

茂樹 しかも野球部！…しかも野球部！あれだけバカにしていた！…伏線回収！

…伏線回収！

通りでスポーツ刈りだったわけだ…

遥奈 ちゃん！…好きだー！！！！

ええ！？

俺と…俺と付き合ってくれー！！！！

…ごめん、無理。

だろうね。

チクシヨウ！！…どうして…どうしてなんだよ…

直近はリコーダーの件だろ。

当たって…当たって砕ける…

砕けすぎだよ。

チクシヨウ…チクシヨウ…

…私、なんか悪い事したかな。

良いんだよ。こいつの勝手な感情なんだから。おい、茂樹、起きろ。茂樹。

晃行、茂樹を起こそうとする。

茂樹 はあ…

晃行 お前もあんま落ち込むなよ。モテるんだからさ。合コンとか行って来い。合コン。

茂樹 モテやしないよ。

晃行 モテてるよ。ほら、告白されてたじゃん。さっきのマスで。女子に告白される

だけでも大分…

茂樹 あれ…罰ゲームだよ。

晃行 え？

茂樹 じゃんけんで負けたやつが、俺に告白する…みたいなゲームを女子がやってたらしくて…それでなんか告白されただけ。

晃行 …まじか。

茂樹 ああ。告白OKした瞬間、奥からクラスメイトがずらずらと出てきたよ。

晃行 …かける言葉がねえよ。

変な間。

遥奈 …あ、続きやろ。続き。晃行君の番だよ。ほらほら茂樹君も元気出して。

晃行 ほら茂樹、ゲーム。

茂樹 ゲーム…

遥奈 晃行君、ルーレット。

晃行 ああ、ごめんごめん。

かなり激しいノイズ。

ルーレットを回す晃行。ブリッジの効果音。照明は点滅。

晃行、包丁で料理を作っている模様。

遥奈 あれ？ここは…

茂樹 あ、この家の台所だ。

遥奈 料理してるみたいだけど…

晃行、全部切り終えて。

晃行 よし、OK。

野菜を炒める音。

晃行 美樹ー！そろそろできるぞー！

ブリッジの効果音。照明は点滅。

茂樹 …またこんなにかよ！

晃行  
なんだよ。

茂樹  
なんでお前の思い出は全部ここらの近辺なんだよ！

晃行  
いいだろ！別に！

音声  
晃行さん、みじん切り。大学3年生の頃の記憶です。…続いて晃行さん、ルーレットを回してください。

茂・晃  
おお！

晃行  
また俺？

遥奈  
あいちゃー…もしかしたらこれ、バグかも…

茂樹  
え、まじで！？順番連続バグとかあるの！？

遥奈  
それは分からないけど…

晃行  
これどうしようか。

茂樹  
どうしたもこうしたも…

遥奈  
たぶんこういうバグって進めていったら、元に戻るかもしれないけど…

晃行  
あ、じゃあそのまま…

茂樹  
そのまま…ってことは…またお前のしょうもない思い出見なきゃいけないのかよ！

晃行  
しよーもないって…で、どうすりゃいいんだよ。

茂樹  
えー…でも、ここまでやったしな…

音声  
晃行さんの番です。

晃行  
もうやるぞ。

茂樹  
えー…

ノイズを更に激しく入れる。

ルーレットを回す晃行。ブリッジの効果音。照明は点滅。

晃行が少し下を向いて、上手側に向かい佇んでいる。

遥奈  
…あれ？ここって…

茂樹  
まだ台所…なんであいつの記憶は全部ここら辺近辺…

遥奈  
ほんとだね。(軽く笑いながら)

包丁の手に取る晃行。効果音。

茂樹  
あれ…？あっちってリビング…

晃行  
美樹、いるのか…※

照明が暗転。包丁が地面に落ちる効果音。

明転する舞台。啞然とする2人。信じられないという様子の晃行。

茂樹

なんだよこれ。あ、もしかして映画か何かか？なんだよ、お前言えよ！どうせ映研だろ？映研の映画だろ？出てんだったら言えよー。てかロケ地ここか。俺絶対見に行ってやったのよー…晃行？

音声

晃行さん、妹を殺害。大学3年生の頃の記憶です。…続いて晃行さん、ルーレットを回してください。

茂樹

…妹…妹さんって…映画じゃないのか？

晃行

…映画ってなんだよ。

茂樹

お前さあ……映画ってなんだよ。え？あれ？じゃあこれって…え？え？

遥奈

……ああ！これも、きっとバグ！バグよね！

茂樹

映画じゃないとしたら……そうだよな。バグで…新たに記憶が作られたってこと？

遥奈

…うん……だってそうじゃなきゃ…

晃行

…バグ……だよな…

音声

晃行さんの番です。

遥奈

ああ、順番はめちやくちやだし……いったん止めようか、このゲーム。

茂樹

えーもうここまで進めたのにやめるのー？おい、晃行。やれやれ。

遥奈

え、でも…

晃行

あ、遥奈ちゃん大丈夫。バグだもん。続けよう。

遥奈

え、大丈夫？

晃行

ああ、大丈夫大丈夫。

茂樹

ほら、ルーレット回せ。

晃行

ああ。

タッチパネルの前に立つ晃行。

ルーレットを回す。ブリッジの効果音。照明は点滅。

ブリッジの効果音が途中でカットアウトされる。

照明は赤い。妹の部屋ということを示す。

晃行は机をずらし、その場所に妹の遺体を埋める。

ブリッジの効果音。照明は点滅。

明転。上手側から戻ってこようとするが、途中で倒れる晃行。

茂樹

晃行？…晃行大丈夫か？…ああ、こりやなんなんだよ。

駆け寄る茂樹。

遥奈 ああの記憶って…ていうかあそこは…

晃行 妹の部屋…妹の部屋の真ん中…

遥奈 え？

音声 晃行さん、妹の死体を遺棄。大学3年生の頃の記憶です。続いて晃行さん、ルーレットを回してください。

晃行 なんなんだよ…なんなんだよこれ…

茂樹 …ほらこれもバグ(苦し紛れ)。

晃行 どんなバグなんだよ！…一体どんなバグだってんだよ…俺はこんなこと…こんなこと…

遥奈 ねえ！…あのテーブルってさ…晃行君の部屋にあった…

茂樹 え…！？

晃行 テーブル…これ…どうして…どうして俺の部屋に…

茂樹 ……おい…晃行…晃行！

晃行 (遮るように)まさかこれって…本当なのか…？

茂樹 え？

晃行 …俺は妹を殺した…死体埋めるときに邪魔だった机をどかした…そしてそのテーブルを俺は自分の部屋に持ってきて…

茂樹 違うだろ晃行！…お前…お前…妹さんは受験勉強してるんだろ！だから今、

ここにいないんだろ！？なあ！なあ！！

晃行 俺にも分かんねえよ！

茂樹を振り払う晃行。

晃行 俺にも分かんねえよ…俺もう…何がなんだか…

音声 一定時間操作されていません。まもなく自動的に晃行さんのルーレットを開始します。

晃行 もう分かんないんだよ…どの記憶が本物で…どの記憶が偽物なのか…なんで

…なんでこんなことに…

激しいノイズが入る。激しく頭を押さえつける晃行。

晃行 う…

茂樹 晃行？晃行大丈夫か！

晃行に駆け寄る茂樹。

言葉にならない言葉をあげる晃行。

茂樹

晃行！

音声

一定時間操作されませんでした。自動的にルーレットを開始します。

茂樹

晃行——！！

ブリッジの効果音。しかし途中からノイズが混じり、完全に切れてしまう。

同時に一気に明転する照明。病院の喧騒がフェードインする。

晃行は一人で何かを抱え込み、座っている。

呼出

金子さん。2番診察室にお入りください。

診察室へ向かう晃行。室に入ると腰をおろす。

診察室奥のカーテンを医者が開ける音。

晃行

お願いします。

医者

はい、お願いします。

晃行

：妹：美樹のやつ：どんな様子ですか？

医者

大分安定してきました。あくまでも妊娠初期段階にありがちな体調不良でし

よう。

晃行

ああ：そうですか。それなら良かった：

医者

但し、1つだけ問題があるとすれば、現在精神状態が非常に不安定でして。

晃行

は、はあ：

医者

母体が不安定では、中の子供も安定しません。何か安らぐものでもあればいい

んですが：

…。

晃行

しかし大変ですね。

医者

はい？

医者

いえ、失礼。

カーテンを閉める音。ゆっくりと立ち上がる晃行。

その立ち姿はどこか悲しい。

何かを右手に持った状態で病室のカーテンを開ける晃行。

そこは妹の病室。

晃行

美樹、調子はどうだ？ほら、お前が好きな呉服屋のケーキを…

美樹 いらぬ。

晃行 え？…だつて美樹、お前これ大好きで…

美樹 そんなの！…いらぬ。

晃行 ああ…ごめん。いらぬいよな。お兄ちゃん、余計なことを…

美樹 来ないでつて言つたよね。

晃行 え…

美樹 もう病室に來ないでつて。

晃行 …ごめん。お兄ちゃん忘れて…

美樹 忘れるわけないでしょ。昨日言つたばかりなのに。

晃行 …。

美樹 もうやめてよ…私に構わないで！…もう私に…

晃行 俺は！…お兄ちゃんは、ただお前のことを思つて、一緒に頑張ろうと…

美樹 やめて！…頑張るなんて言葉大嫌い！…一緒に？…私と？…私の苦勞なん

て何も分かんない癖に！

晃行 …。

美樹 私も…私も普通に産みたかつたよ…旦那さんと暮らして…お母さんに…子

供の顔見せて…お母さんに色々教えてもらつて…でもお母さんは…お母さん

は…

ブリッジの効果音（このゲームのもの）。完全暗転。

下手側に置かれた1つの箱。その上には晃行の母親が立っている。

共にひどく無表情。喋る言葉もどこか無機質である。

それと強くコントラストするように、

舞台の中心ではクレヨンで絵を描く、笑顔の晃行。

画用紙はマイムだが、クレヨンは小道具。

絵を描き終わり、クレヨンを置き、下手側に移動する晃行。

但し、役者は全員ツラを向くことになる。

晃行 ねえお母さん！見てよ、これ！うまく描けたんだ！ほら…

母親 晃行…あんた、部屋の片づけは？

晃行 …え？

母親 部屋の片づけ。やれつてさつき言つたわよね？

晃行 …うん。

母親 聞こえなかつたの？

晃行 …いや。

母親 そんな下手な絵を描いてる暇があつたら、私の言うことを聞いて。

ドアの音。ワントンポ遅らせて上手側の照明が点灯。  
上手側の箱にスーツ姿の父親が立っている。母親と同様無機質。

晃行 あ、お父さんおかえりなさい！見てよ、この絵。

父親、絵を受け取るとビリビリに破く。

父親 …この出来損ないが。

…え。

母親 あなた。ご飯、出来てるわよ。

父親 食ってきたからいらねえよ。

母親 …あら、また女の子と？

父親 さあな。

母親 まさにあなたあつてのあの子ね。本当に似てる。

父親 あいつをダメにしたのはお前の躰だ。

母親 なんですって。

父親 なんだよ。

晃行 ふっ、二人とも！喧嘩はやめてよ！…ね！

母親・父親 あんたがダメだから・お前がダメだからだ。

晃行 …え？

父親 お前がちゃんとしなからだ。

母親 あんたがちゃんとしなからね、お父さんとお母さん、仲が悪くなっちゃうの。

晃行 ごめんなさい…ごめんなさい…

父親 本当にダメな奴だ。

晃行 ごめんなさい…ごめんなさい…

母親 どうして思い通りに育ってくれないの？

晃行 ごめんなさい…ごめんなさい…

父親 全く、これが自分の子供だと思おうと気分が悪い。

晃行 ごめんなさい…ごめんなさい…

母親 あら、ちゃんとあなたの子よ。

晃行 ごめんなさい…ごめんなさい…

父親 美樹もきつと…出来損ないになるんだろうな。

晃行 ……美樹は…美樹は…

女兒の声がうつすらと聞こえてくる。

大きくため息をつく父親。椅子から降りると同時にドアが閉まる音。消える上手側照明。

晃行は顔をあげ、上手側を見るが、その時には既に誰もいない。

下手側の母親を見ると、首紐をかけている（マイム）。

これ以降の母親は無機質ではない。

突如無邪気な語り口調へと変化を遂げる。

晃行 お母さん：？：なにをしてるの？

母親 晃行、お母さんね、別の世界に行くの。

晃行 …別の世界？

母親 そう。苦しみの無い…美しい世界。

晃行 …どうして？

母親 …。

晃行 ねえどうして！…もしかして…僕がダメだから？…僕が…ダメな子だから

母親 …晃行。…あなたはダメな子なんかじゃないわ…晃行も美樹も…とつてもい

い子。とつてもかわい、私の子。

晃行 …じゃあ…どうして…？どうして…

母親 …お母さんね…もう疲れちゃったの。…お父さんがいなくなって、お母さんは一人であんたたちを育てなきゃいけなくなった…でももう持たない……だから…

晃行 お母さん！

母親 止めないで…！…お母さんを楽にさせて…

晃行 …お母さん…待ってよ…ねえ。

晃行と母親の激しいアーギュメント。

母親の厭味ったらしさは完全に消え失せている。

母親 もうダメなの…

晃行 お母さん！

母親 さよなら…

晃行 お母さんってば！

母親 またいつか会えるわ…

晃行 待ってよ！

母親 その時はきつと…

晃行 置いていかないで！

母親 未来が楽しみね…！



晃行の書いた絵であることを示唆している。  
舞台配置は人生ゲームの時の形から、最初の晃行の部屋に戻っている。  
頭を抱え、慟哭する晃行。

音声 ……予期せぬエラーが発生しました。ゲームを終了します。

電源が切れる効果音。

茂樹 晃行：お前の両親って…事故なんじゃ…

晃行 ……確かにそうだった…いや、そうだと思い込んでたんだ…事故で2人とも死んだんだと…でも違う…母さんは自殺したんだ…父さんに捨てられて…まだ小さかった俺は…母さんを助けることが出来なかった…紐が首にめり込み、苦痛に顔を歪ませる母さんを！…ただ見てることしか出来なかったんだ…

何も言えず立ち尽くす二人。

晃行 母さんが自殺したことも…そして大好きな妹をこの手で殺したことも…全部

本当だ…でも何で…僕は何でこんな大切な事を忘れてしまっていたんだ…

茂樹 ……晃行…

遥奈 解離性健忘。

茂樹 ……え？

遥奈 記憶障害の一種…ゼミで習った…その中でも解離性健忘の特徴は、自分の身に起こった苦しみや悲しみを伴った出来事に関する記憶を無くしてしまうこと。本人にとっては、その出来事があったことすら忘れてしまう…だから晃行君は、ネグレクトを受けた記憶やお母さんの自殺、そして…妹さんを殺めてしまった事も、本当に…そして完全に忘れていた…

茂樹 ……だから深層記憶を利用するこのゲームでは、その記憶が…もう1度出てきて…

晃行 それを…思い出した。

晃行の泣き声だけがこだまする。

茂樹 ……何ずっと泣いてんだよ晃行…俺は信じないぞ！…こんなの…こんなの…

晃行 ……ほんとなんだ…俺は妹を殺した。大切な妹を…

晃行 ……否定してくれよ…全部嘘だって…

晃行 ……ごめんな…ごめん…

茂樹 友達じゃねえかよ！…どうして相談してくれなかったんだよ…

遥奈 局在性健忘の人は…開いてしまった記憶の隙間に全く体験したことのない記憶が刷り込まれてしまうことがある。このゲームのバグで、もしあいつたことが起きてたなら、ただ、晃行君は別のことを忘れていた場所に、間違えた記憶を刷り込んだことになる。…だから、本当は経験していないのかもしれない…その可能性は…あると思う…

茂樹 遥奈ちゃん…その話？本当？

遥奈 うん。…だから晃行君にその意思があるなら、警察に…自首するべきだと思う…そしたら、全部…はつきりする。

間があく。全員がそれぞれのことを考えている。

茂樹 晃行…俺は信じないぞ。友達なんだ。こんなの信じない。でも！…でももし、これが全部本当で…お前が牢屋の中に入ったとしても、俺はそれで友達をやめたりなんかしない。

晃行 え…。

茂樹 あたりまえじゃねえかよ！…そんなんで縁が切れるなんて…お前、安く算段してんじゃねえよ…。

晃行 茂樹。

遥奈 私も茂樹君と一緒に。3年間一緒だったんだもん。

晃行 遥奈ちゃん……ごめん茂樹。

茂樹 どうした？

晃行 ……玄関にある電話で、タクシー呼んでもらっていいか…。流石にパトカーに乗っていくわけにいかないしさ。

茂樹 ……ああ。

立ち上がるうとする晃行。倒れそうになり、遥奈が慌てて支える。

茂樹は大きく息をつくと、下手へとはける。

晃行も遥奈に支えられながら下手へとはける。

音楽は一段と大きくなる。

舞台はゆっくりと暗転。それと同時に照明がカットアウト。

金属バットが床に落ちる音。

サイレンが光る。そのサイレンの音は大きくなり、そしてカットアウト。代わりに重苦しい音楽がフェードインし始める。

明転するとそこは裁判所。被告人席は後ろを向いている。

それに合わせるように晃行もその方向を向き、問いに答える。

舞台上に晃行ひとり。裁判官の言葉は上から降ってくる。

晃行から最初に並べられている言葉は、友人に伝えた言葉と変わらない。

晃行

…僕は妹にはいつまでも笑顔であって欲しかったんです。でもあの時、僕は思  
ったんです。これからきつと…美樹は…妹は母さんの様に、今後色んなことに  
苦しんでしまう。…それならいっそ…殺してあげた方がいい…

裁判官

…被害者に対しての気持ちは、何かありますか？

晃行

…幸せであってほしいな…って。

晃行がその言葉の後に、何も続けないことが分かった裁判官。

喋りだそうとする。

しかし、それを晃行の言葉が遮る。

晃行

裁判官さん…ひとつお聞きしたいんですが。

裁判官

…なんですか？

晃行

…この事件って誰が悪いんですかね？…母親を捨てた父親ですか？…僕を  
置いていった母親ですか？それとも…妹ですか？…手を下した…僕です  
か？

裁判官

……ならどうして…

晃行

はい？

裁判官

ならどうして…君は、友人である彼らまで殺したんですか？

晃行

……友達じゃなくなっちゃうから。

裁判官

…え？

晃行

僕が人を殺して、何年も牢屋に入っている間に、茂樹も遥奈ちゃんも、口では  
ああは言っているけど…きつと友達じゃなくなってしまう…このままじゃ、居  
場所をまた失ってしまう…でも殺してしまえば…ずっと友達のままにいれる  
なあ…って。

裁判官

…。

晃行

人間は誰しも…いつも僕らを自分とは別の存在にしたがる…異常者だとか、  
サイコキラーだとか、そういったレッテルを貼って…でも、この世にそんなや  
つはいないんですよ…僕らだって…普通に生きたかったんです。

うつすらと *Que sera, sera* が流れ始める。

舞台上から垂れてくる首紐。首紐にだけスポットが当たる。

それを晃行はまるで、空から蜘蛛の糸が垂れてきたかのような表情。

見上げる。

晃行の口調はひどく幼児退行する。

晃行

…お母さんたちが先に行っちゃった別の世界って、どんな世界なんだろう…  
幸せな世界だといいな…

晃行、涙を含んだ笑い。狂ったように笑い続ける。

舞台上下手下から大量のタブロイドサイズの新聞が飛んでくる。

最初は舞台上だけだが、まもなく客席にも新聞が巻き散らかされる。

晃行の笑い声が響く中、照明が消える。同時に音楽もカットアウト。

死刑台の床が開く音。その音は自殺した母親と同じ音。

晃行の笑い声は電話線を切ったかのように聞こえなくなる。

最初の客入り時の音楽がかかり始め、プロジェクターで砂嵐が流れる。

その砂嵐にぶら下がった首紐が照らされる。

途中からニュース番組や井戸端会議などの声ははっきりと聞こえます。

その番組や会話内容は殺人事件の加害者となった晃行の話。

しかし同情の声は無い。彼を異常者であるとする声ばかりである。

まき散らされた新聞の大見出しにはこう書いてあった。

“生まれながらの殺人鬼・金子晃行 死刑執行”

そのまま客席の照明がつく。音楽は流れたまま。

「かぞく」の絵に照明が焚かれている。

※脚本の内容と実際の公演内容は異なる恐れがあります。

※脚本に登場する人物・出来事は実在の人物・出来事と一切関係ありません。